広島県
取組成果発表資料

発表の流れ

1　本事業の導入背景

2　本事業の方向性

3　取組①＜遠隔授業＞

4　取組②＜コンソーシアム＞

5　本事業で明らかにできた方向性

6　今後の展望

1　本事業の導入背景

【本県の中山間地域の高等学校の特徴と課題】

生徒数・教員数が少ないことや**地域の特性**に着目した場合

観点	特　徴	課　題
生徒の学び	個々の生徒への丁寧な対応 →　個別最適な学びの環境	科目の**専門でない教員**が担当する授業がある
地域交流	地域とのつながりが強く、協力体制を構築	地域との関わりが限定的、生徒の**学びの場を更に広げる**必要がある

➡ 生徒の多様なニーズに対応するためには、**教育資源**に不十分な面がある

２　本事業の方向性

（1）　事業の目標

＜遠隔授業＞

○ 遠隔授業により、**専門性の高い授業**を実施する

○ 生徒の**ニーズに応じた授業**を実施する

＜コンソーシアム＞

○ 学校と地域が一緒になって、「新たな取組」や「取組への価値付け」を考える場を設定することで、**各学校の探究活動の充実**を図る

○ **学校を超えた学びの環境**を創出する

➡ 生徒が**質の高い学び**を享受できる体制の構築を目指す

２ 本事業の方向性

（2） 成果指標

＜遠隔授業＞

★遠隔教育システムを活用して実施した教育活動に対する満足度

年度	目標値
R4	90%
R5	95%

＜コンソーシアム＞

★次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力の育成

年度	目標値
R4	46%
R5	50%

2　本事業の方向性

（3）導入校

＜遠隔授業＞

配信･受信	学　校　名	学年の学級数
配信校	福山誠之館高等学校	1学年7～8学級
受信校	油木高等学校	1学年2学級
	東城高等学校	1学年1学級
	日彰館高等学校	1学年2学級

＜コンソーシアム＞

油木高等学校、東城高等学校、日彰館高等学校

３　取組①＜遠隔授業＞

（1）　体制の整備

ア　時程の共通化

イ　配信方法　→　配信校から受信校への配信

（2）　授業づくり

ア　効果的な遠隔授業の実践

① 生徒の学習活動を細分化した授業計画

② 生徒一人1台コンピュータやクラウドサービスの活用

イ　受信校の立会い者

→　業務内容によって、役割を整理（理科の実験、生徒の学習支援等）

（1）体制の整備

ア　時程の共通化

○ 4校（福山誠之館、油木、東城、日彰館）での**時程の共通化**

通番	開始時刻		終了時刻	①	②
1	9:00	～	9:50	1限	1限
2	10:00	～	10:50	2限	2限
3	11:00	～	11:50	3限	3限
4	12:00	～	12:50	昼休憩	4限
5	12:50	～	13:40	4限	昼休憩
6	13:50	～	14:40	5限	5限
7	14:50	～	15:40	6限	6限
8	15:50	～	16:40	7限	7限

＜共通化の手順＞

○ R3に4校の校長で協議

→ **配信校がリーダーシップ**をとって大枠を決定

○ R4から共通化した時程を採用

(1)体制の整備

イ　配信方法

○　配信校から受信校(3校)へ配信

※　専門の教員がいない科目を中心に配信

油木高等学校

① 歴史総合
② 地学基礎
③ 創作書道

東城高等学校

① 物理基礎
② 物理

日彰館高等学校

① 公共
② 倫理
③ 化学

若手やベテラン教員等が配信

福山誠之館高等学校(配信校)

○各学校の遠隔教育担当教員(1名)がとりまとめ
○遠隔教育担当教員と授業者で日程や評価について調整

(2)授業づくり

ア　効果的な遠隔授業の実践

① 生徒の**学習活動を細分化**した授業計画

【「歴史総合」の授業展開の例】(展開部分のみ)

時間	学習活動
6分	イギリスの政治についての資料分析、スプレッドシートへの記入
6分	明治新政府の政策についてグループで文献資料を分析
6分	イギリスと日本の経済力ついての資料分析、スプレッドシートへの記入
6分	イギリスと日本の生活についての資料分析、スプレッドシートへの記入
10分	イギリスと明治新政府の政策を比較、相違点・共通点を考察
5分	それぞれの班の意見をスプレッドシートで共有

② **生徒一人1台コンピュータ**、**クラウドサービス(Google Workspace)**の活用(協働学習、振り返り等)

(2)授業づくり

イ　受信校の立会い者

○　受信校の**教員**(同教科、他教科)による立会い
→　立会い者の役割を次のとおり整理

担当者	場面	業務内容
当該教科の免許保有者でなければならない	授業前	・理科の実験における器具や薬品等の準備 ・授業内容についての打合せ(授業計画についての支援)
	授業中	・授業者の説明についての生徒への支援 ・生徒の見取りの支援 ・授業内容についての生徒への個別指導(質問対応等) ・理科の実験における器具等の取扱いについての生徒支援
	授業後	・生徒の状況に応じた授業内容についての協議 ・理科の実験における器具や薬品等の片付け
教員でなければならない	授業前	・生徒についての情報共有(授業や学校生活の様子、進路希望等)
	授業中	・出欠状況の管理 ・生徒と授業者のコミュニケーションの支援 ・生徒への個別の声掛け、机間指導の代行
	授業後	・授業における生徒の取組状況の共有
教員以外でも可能	授業前	・日程調整、学校行事等の連絡 ・機器の接続 ・プリント等の資料の印刷
	授業中	・生徒の出欠状況の確認、共有 ・プリントの配付、回収 ・カメラアングルの調整 ・機器トラブルへの対応
	授業後	・機材等の片付け

(2)授業づくり

イ　受信校の立会い者

○ **配信校と受信校の教員が協力**した授業づくり

① 授業計画の打合せ、**生徒情報**の共有
（授業や日常における生徒の様子、進路希望等）

② **受信校の教員の専門性**を生かした授業展開
（例）「政治・経済」の遠隔授業で、日本史を専門とする受信校の教員が歴史的な観点から生徒へ対面授業

配信校

協力

受信校

成果と課題＜遠隔授業＞

（1） 体制の整備

ア　時程の共通化

○ 協議の過程で、各学校が**教育活動全体を見直し**ながら時程の共通化を進めることができた

○ 各学校が**自校の教育活動と関連させて選択できる時程**を提案することで共通化できた

● 配信校の原案を基に共通化を進めることができたが、関係校の合意が得られない場合の対応方法についても検討を進める必要がある

○＝成果、●＝課題

成果と課題＜遠隔授業＞

（1） 体制の整備

イ 配信方法

○「実施要領」(※)を作成するなど、遠隔授業による**単位認定を行うための体制**を整えることができた

○ **専門性の高い授業**を配信できた

● 配信校の教員は自校の授業や校務分掌に加えて遠隔授業を担当しているなど、負担が大きい

→ 配信校側の**負担軽減**を図る必要がある

(※)成績処理や考査の実施方法等を整理して「実施要領」とし、県立学校へ通知した。

成果と課題＜遠隔授業＞

（2） 授業づくり

ア　効果的な遠隔授業の実践

① 生徒の学習活動を細分化した授業計画

○ 生徒が**集中しやすい授業**を進めることができた

（受信校教員の感想）
それぞれの場面でのやるべきことが明確になり、
生徒が集中して授業に取り組めた

● 学習活動を細分化した授業の実践事例を普及させる必要がある

成果と課題＜遠隔授業＞

（2） 授業づくり

② 生徒一人1台コンピュータやクラウドサービスの活用

○ 多くの生徒の意見を授業に反映できた

（生徒の感想）
誰か一人ではなく、みんなの意見を反映できた。

○ 蓄積されたデータを教員が評価に活用できた

○ グループ活動等における**生徒の取組状況を**教員が**リアルタイムで把握**することができた

○ 遠隔授業で実践したデジタル活用を**通常の対面授業**にも反映できた

● 受信校の生徒が多い場合の授業づくりの方法を検討する必要がある

成果と課題＜遠隔授業＞

（2） 授業づくり

イ 受信校の立会い者

○ 受信校の立会い者の役割は、実施する授業の内容によって異なることが明らかとなった（14ページ参照）

○ 教科を横断した**新たな授業づくり**が示唆された（例）公民科（配信校）と地理歴史科（受信校）

○ **配信校と受信校の教員が協力**して授業づくりを進めることで、**授業力の向上**につながった

● 配信校と受信校の教員が綿密に連携し、効果的な授業づくりを進めるためには、両者の関係構築が重要となることを周知する必要がある

取組①＜遠隔授業＞からの示唆

（1）体制の整備

○ 学校間の調整においては、遠隔授業のための物理的な調整に終始せず、**各学校の教育活動と関連付ける**ことで調整が可能になる

○ 関係校間で「**どうしたらできるか**」という姿勢で検討を重ねることにより、実現可能な方法を導き出すことができる

取組①＜遠隔授業＞からの示唆

（2）授業づくり

○ **遠隔授業の在り方**や**新たな授業づくり**についての可能性の発見

○ 遠隔授業を通じて、配信校・受信校ともに**教員のスキルアップ**につながること

○ 質の高い授業を実施するためには、**受信校の教員**も積極的に関わって遠隔授業を進めることが一層重要となること

４　取組②＜コンソーシアム＞

（1）探究的な学びの充実

○「総合的な探究の時間」等の充実

→　具体的な取組内容の検討

（2）　探究的な学びの成果発信・更なる充実

○ 3校合同での取組

① 合同発表会

② 生徒実行委員会

（3）　環境づくり

○　コンソーシアムの構築

（1）探究的な学びの充実

○「総合的な探究の時間」等の充実

→　地域と連携した取組の検討

＜探究活動の例＞

A 商品開発（お菓子の製作）、販売

B　「からくり文字」を活用した地域との連携

C 地域のキャラクターの着ぐるみ制作、PR活動

「HANATOJYO」（店名）
のからくり文字

（2）探究的な学びの成果発信・更なる充実

○ 3校合同での取組

＜活動体制＞

油木高等学校

ア　合同発表会（課程内）
イ　生徒実行委員会（課程外）

東城高等学校

日彰館高等学校

（2）探究的な学びの成果発信・更なる充実

① 合同発表会

○ 3校をオンラインで接続して実施

- 生徒による探究内容の**発表**
- 生徒による**質疑応答**
- 参加生徒による**相互評価**

（2）探究的な学びの成果発信・更なる充実

② 生徒実行委員会

○ 3校の**代表生徒11名**で構成

○ 学校を超えた**探究活動**の実施

- ◆ 3地域の共通課題（獣による被害）がテーマ
- ◆ 捕獲された命を大切にするための**ジビエ料理**の開発（地域の特産品を活用したライスコロッケ）
- ◆ 地域活性化の**イベントでの販売**
- ◆ **探究成果発表**（年2回）

○ **新潟県の生徒**との交流
（探究成果の発表、意見交流）

(3)環境づくり

○ コンソーシアムの構築

＜教育活動を実践する上で必要な体制＞

コンソーシアム

油木高等学校

各学校が地域の関係機関等とコンソーシアムを構築

コンソーシアム

日彰館高等学校

コンソーシアム

東城高等学校

成果と課題＜コンソーシアム＞

（1） 探究的な学びの充実

○ **学校単独では実現が難しい取組**を実践できた

○ 生徒の**見方や考え方を変える**活動が展開できた

（生徒の感想）
　高校生では町を活性化することができないと思っていたけど、地域の人たちや地元の企業などと協力することで、活性化させることができるんだなと思いました。

● 地域の関係機関等と連携することで生徒の活動が多様化したため、資金の持続的な獲得がより必要

● 担当教員が異動しても**取組を持続できる体制の構築**が必要

成果と課題＜コンソーシアム＞

（2） 探究的な学びの成果発信・更なる充実

① 合同発表会

○ **探究の視野を広げる**ことができた

（生徒の感想）
自分が思いつかないまとめ方や着眼点が多く視野が広がった。

○ **地域の課題や将来への興味・関心**が高まった

● **地域への貢献に対する意識**は、他の項目に比べて高まりが見られなかった

＜生徒アンケート結果＞（令和5年度）

項　目	肯定的な回答の割合		増減
	事　前	発表会後	
身近な地域の課題に興味・関心があるか。	71.3%	85.6%	+14.3
身近な地域の将来に興味・関心があるか。	72.1%	78.3%	+6.2
将来、身近な地域に貢献したいと思うか。	74.2%	77.5%	+3.3
将来、中山間地域に住みたいと思うか。	38.2%	62.3%	+24.1

成果と課題＜コンソーシアム＞

（2） 探究的な学びの成果発信・更なる充実

② 生徒実行委員会

○ 多様な他者と協働することにより、生徒が**自分自身を再発見する**機会を創出できた

（生徒の感想） ※イベント参加後（R5.10.1）
参加してみて新しい自分の姿を完璧ではないけれど見つけることができたと思う。前の自分はこのような行事に参加することがなかったので貴重な体験になった。

● 生徒実行委員会の取組を、**学校の取組に還元する方法が確立できていない**ことが明らかとなった

取組②＜コンソーシアム＞からの示唆

② 学校を超えた取組

（1）探究的な学びの充実

○ 地域と関わる学習を通じて、**生徒の見方や考え方を変える機会**となる

○ 持続性を意識しながらプログラムの改善を進めることが一層重要となる

（2）探究的な学びの成果発信・更なる充実

○ 生徒自身の**取組を発信**し、**他者から評価を得る場を設定すること**が重要である

○ 本事業での取組を教育課程に位置付け、**体系的な教育活動の中で生徒の資質・能力を育成**することが一層重要となる

５　本事業で明らかになった方向性

＜遠隔授業＞

（1）事業の目標

○ 遠隔授業により、**専門性の高い授業**を実施する
○ 生徒の**ニーズに応じた授業**を実施する

○ 専門性の高い授業を実施することで、生徒の**進路希望等のニーズに対応**できる
● **生徒の満足度**を上げるためには、更なる授業づくりの工夫が必要である

（2）成果指標

【遠隔教育システムを活用して実施した教育活動に対する満足度】

年度	目標値	実績値
R4	90%	82.4%
R5	95%	78.7%

5　本事業で明らかになった方向性

＜コンソーシアム＞

（1）事業の目標

○ 学校と地域が一緒になって、「新たな取組」や「取組への価値付け」を考える場を設定することで、**各学校の探究活動の充実**を図る
○ **学校を超えた学びの環境**を創出する

⇒
○ コンソーシアムを構築した取組を通じて、**探究活動の充実**を図ることができる
○ **学校を超えた学びの環境**を創出することで、生徒の資質・能力の育成に資することができる

（2）成果指標

【次代を担うリーダーとして活躍するための資質・能力の育成】

年度	目標値	実績値
R4	46%	91.7%
R5	50%	88.3%

※中山間地域の各学校が設定している「育成を目指す資質・能力」についての生徒アンケートを基に集計

５　本事業で明らかになった方向性

＜遠隔授業・コンソーシアム＞

（３）導入校の変化

○ 遠隔授業を通じて、通常の授業においても**授業改善**を図ることができた

→　教員の**スキルアップ**

○ 生徒が取組を外部へ積極的に発信するなど、**探究活動が活発化**した

遠隔授業・コンソーシアムの取組を通じて、生徒が**質の高い学び**を享受できる体制の構築を図ることができる

６　今後の展望

＜遠隔授業＞

（1）体制の整備

○ 持続可能な遠隔授業の実施に向けた配信体制の整備

→　真に必要な科目の配信、配信校の負担軽減

（2）授業づくり

○ 広報の推進（研修の実施・県教委HPの活用等）

＜コンソーシアム＞

○ 各学校の自走した取組を支援

＜校　内＞取組の共有、カリキュラムへの反映

＜学校間＞校内の取組と校外での取組の還流